



2015年3月27日〔金〕
東京藝術大学奏楽堂(大学構内)
入場無料(全席自由)

午後6時30分開場
午後7時開演

※午後6時より奏楽堂前にて
整理券配布

主催：東京藝術大学演奏藝術センター

東京藝術大学音楽学部

お問合せ：東京藝術大学演奏藝術センター

050-5525-2465

The way
we were
on the keyboard
或は、
鍵盤上の
青春。

老害よ、総括せよ。
若人よ、自己否定せよ。
独りであること、未熟であること。
これが我々の原点である。

——鍵盤上で交錯する指と指が音楽を奏でてゆくように、僕たちは出会いと別れを繰り返し、物語を紡いでゆく——
思想と主義が氾濫し、革命への理想と現実が交錯する学生達の熱く愚かな時代。

芸術による革命を志す芸術至上主義団体「全楽連」に所属する中原、小林、そしてふたりが想いを寄せる長谷川。
芸術の自由と未来の為に闘う中で、彼らは自らの存在の意味を問い、それぞれの選択を迫られる。

一人の男は芸術の夢を諦めて社会に迎合することを選び、一人の男は理想を追い求め、芸術に全てを捧げようとする。
そして悪意のない無邪気な女は一人、男達の物語を交錯させる。

自己否定と総括の果て、去り行く時代の残骸の上で彼らは何を見出すのか。



先生 佐川和正 (文学座)



中原 温井裕人



小林 石井基幾



長谷川 元吉有希子

藝大生への公募によって行われる企画公演「奏楽堂企画」。

第9回となる今回は、夏目漱石「こゝろ」、奥浩平「青春の墓標」に着想を得て、学生運動を舞台に描かれる青春群像劇である。
自ら死を選んだ若者達の赤裸々な言葉、鍵盤楽器によって奏でられる名曲の数々、日本画による多層的な映像表現。
朗読と音楽と映像によって描き出されるのは、暗く、鬱々とした、絶望と恥—オント—にまみれた青春の負の側面である。
現代の若者は、そしてかつて若者だった人々は、どう生きるべきか。我々は、今こそ総括しなければならない。

藝大21
第9回奏楽堂企画学内公募
最優秀企画

作・演出：中井陽介

主催：東京藝術大学演奏芸術センター
東京藝術大学音楽学部

お問合せ：東京藝術大学演奏芸術センター
050-5525-2465

「The way we were on the keyboard
或は、鍵盤上の青春。」

2015年3月27日(金)

開場 午後6時30分

開演 午後7時

東京藝術大学奏楽堂 (大学構内)
入場無料 (全席自由)

※午後6時より奏楽堂ホール前にて
整理券を配布いたします。

公式サイト：
<http://2015keyboard.webcrow.jp/>

出演：佐川和正 (文学座)
温井裕人
石井基幾
元吉有希子

朗読：大村真敬、田久保有香 ほか
群読：東京藝術大学学生有志
ピアノ：善養寺紗代、中山裕佳
オルガン：石川優歌
チェンバロ：藤田夏未

絵画制作：三宅世梨菜
舞台設計：駒崎継広
編曲：青島佳祐
舞台監督：浜田和孝
宣伝美術：久保あずさ

